

かけはし

【 重点教育目標 】

「自分の考えをもち、適切に
伝えることができる生徒の育成」

第 9 号

令和 6 年 12 月 5 日 (木)

「いじめ」という差別に立ち向かう

校長 池田 浩 司

12月9日(月)に生徒会主催で「いじめ撲滅集会」が行われます。先立って、私から生徒の皆さん、そして保護者の皆様、先生たちにも考えてほしいことを、この学校だよりで問いかけようと思います。いつもは保護者の皆様に対して書いていますが、ご家庭で話題にして一緒に考えてみてほしいと思います。

「いじめ」ほど怖いものはない。笑いごとじゃないんだ。

いじめは、最も直接型の、行動型の、実害型の、差別である。

「いじめ」について考えることにしよう。

自分のいじめた体験。

自分のいじめられた体験。

両方を思い出しながら、考えていこう。

「いじめ」の特徴を、いくつか整理してみようと思います。

①冗談という……○引き金：軽いノリで起こる。○逃げ道：その気じゃないと逃げる。

○落とし穴：差別と気付いていない。

②エスカレートする。○雪だるま式に加速していく。

○相ノリ、悪ノリで、エスカレートを止められなくなる。

③「側」が形成される。○いじめる側。○いじめられる側。

いじめられなくなければ、いじめる側に入るしかない。

私は、生徒のみんなが学校生活で体験することの中で、「いじめ」は最悪なものだと捉えています。手をこまねくのではなく、まだ起こらないうちに、積極的にそのメカニズムを勉強しておく必要があります。だから、1学期に全学年の先生方に「いじめ」について必ず授業するようにお願いしました(道徳等で)。

「いじめ」がなぜ怖いのか？

それは、自殺や殺人が起こるからじゃないんだ。

そこまでひどくなったらおしまいだ。

死をまねかなくても、「いじめ」は怖いのです。いじめはすべて、許されないのだ。

問題として取り上げられない、発覚しない無数のいじめも、怖いのです。

いじめの温床になっているような生活は学校生活ではないのです。

エスカレート＝「誠実さ」の消失

○つぶやき。いたずら書き。○まなざし。○教室のたたずまいの乱れ。○トゲのある言葉づき。

○標的の固定化。○バカ笑い。わざと笑い。○横暴・非協力。○悪ノリ・大人ぶり。○手先に使う。

○親分子分の関係の成立。○しつこい暴力。○グループの肥大化・固定化。○深刻な事態。

「笑いながらいたぶる」のがいじめなんだ。

いじめほど悲しいものはないんだよ。

いじめほど許せないものはないんだよ。

中学生のみんなには、もっと「人の心」について学んでほしいと思っています。しばらく、この学校だよりで、みんなと一緒に考える機会をもちたいと思います。よろしくお願ひしますね。